

人文科学研究所は、立命館大学のもっとも歴史の古い研究所であり、1948年の発足以来、学内外の研究者を組織し、人文科学および人文・社会諸科学の学際的共同研究を精力的に推し進め、その成果を社会に還元する取り組みを積み重ねてきました。貧富の格差の増大、度重なる民族・地域紛争、飢餓、差別の広がりなど人間の尊厳や生存条件を大きく阻害する深刻な危機に見舞われつつある今日こそ、人文社会科学に対する期待は高まりつつあります。

その期待に応えるために、これまでの伝統の継承とともに、より充実した学際的研究への取り組みが求められています。本研究所は一切の妥協を排して、こうした未来を見据えた研究に取り組んでいきたいと考えています。そのために、学内外の研究者の豊富な研究蓄積と旺盛な問題関心に積極的に目を向け、また未来を担う若い世代の研究者の斬新な視座やイマジネーションを最大限に生かしながら、あらたな可能性を秘めた「人間の学」を追求していきます。

主な研究テーマ

- 政治・社会変動を視野に入れた近代日本思想史の総合的研究
 - 日本近代主権と戦前～戦後の憲法構想、立憲主義思想、政治体制構想
 - 近代日本社会の変動と社会思想史・社会経済史
 - 近世から近代にいたる社会・文化変動の動態的研究
- アジアのツーリズム空間の生成過程とトランスナショナルな人の移動に関する学際的総合的研究
 - アジアにおける災害とツーリズム
 - アジアにおけるコミュニティ・ベース観光の可能性
 - アジアの周縁的社会集団とツーリズム
- グローバル化のリージョナルな展開とガバナンス構築における市民運動
 - アジアにおける市民社会の重層的変容・流動化
 - 岐路に立つ市民運動の展開
- 間文化現象学
 - 現象学の観点からの間文化的諸現象の解明
 - 間文化的・間世代的な研究組織の形成
- 暴力からの人間存在の回復
 - 暴力からの人間性の回復の可能性を人文科学の多様な成果をもとに考察する学際的研究

研究所としての実績

立命館大学人文科学研究所叢書シリーズの刊行

第19輯：篠田武司・西口清勝・松下冽 編

『グローバル化とリージョナリズム「グローバル化の現代一現状と課題」』第2巻（御茶の水書房、2009年）

第18輯：中島茂樹・中谷義和 編

『グローバル化と国家の変容「グローバル化の現代一現状と課題」』第1巻（御茶の水書房、2009年）

定期刊行物

『人文科学研究所紀要』（創刊号「末川博士還暦記念」1953年刊～96号（2011年刊））

Journal of Ritsumeikan Social Sciences and Humanities（2009年刊～ vol.3（2011年刊））

近年の主な学術シンポジウム

間文化現象学シンポジウム「精神と共存」（2011年）

国際ツーリズムセミナー「Progress and Challenges in Tourism Studies: Comparative Study on Asian Countries」（2010年）

国際学術シンポジウム「社会的弱者の観光を通じての自立と自律」（2008年）

国際学術シンポジウム「グローバル化と国民国家の行方」（2008年）

主な学術交流・研究協力機関

ランカスター大学（イギリス）、ソウル国立大学、中央大学（韓国）、韓国文化観光研究所、暨南大学（中国）、中山大学（中国）、上海師範大学、国立台湾師範大学、香港中文大学、マレーシア国民大学、マレーシア科学大学、ウダヤナ大学（インドネシア）、マヒドール大学（タイ）、フィリピン大学、ケルン大学、コペンハーゲン大学、カレル大学（チェコ）、メンフィス大学（アメリカ）他

所長

小関 素明（文学部・教授）

主な研究拠点

立命館大学（衣笠キャンパス）人文科学研究所

お問合せ先

立命館大学 研究部 リサーチオフィス（衣笠）内 人文科学研究所事務局

TEL: 075-465-8225 FAX: 075-465-8245 E-mail: jinbun@st.ritsumei.ac.jp

URL: http://www.ritsumei.ac.jp/acd/re/k-rsc/hss/hss_index.htm